



ここ数年の間に、欧米のカップルがウェディングの場所として日本を選ぶケースが増えてきました。自国を離れ、二人だけ、または数名の友人や家族を連れて、結婚の誓いを日本でおこないます。自国や故郷を離れての結婚式は人数の大小に関係なく一般的にデスティネーションウェディングと呼ばれていますが、中でもカップルだけや少人数の友人や家族を呼んで、結婚の誓いをしながら撮影も楽しむウェディングスタイルを「エローブメントウェディング」と言います。

教会や神社仏閣などの施設にこだわらない場所、日本では例えば日本庭園や、桜の木の下、雪景色や日本らしい絵になる景色を誓い合う場として選ばれることが多いです。私の提供しているサービス“BEyond Weddings & Events”ではカップルの意向やストーリーを丁寧にヒアリングし考慮した上で、観光地として著名な場所だけではなく、まだあまり知られていない地方の文化、自然、日本の伝統、その地域の人の繋がりを大切にプランニングしていくことを重視しています。それがBEyond Weddings & Eventsの特徴でもあり、また海外のカップルから支持されるひとつの要因であると考えています。日本を選んでもらったからこそできる心に残るOnly Oneのプランニングを目指し、またその地方がカップルのSNSの発信力によって知名度が上がり少しでも活性化することを願っています。

京都府の丹後半島にある、滝が流れるスポットを二人の結婚の誓いの場に選んだDaisyとJesusは米国カリフォルニア州で生まれ育ったメキシコ系アメリカ人。結婚式は、カリフォルニアを離れて、二人だけで誓い合いたかったそうで、ずっと行ってみたい日本で新婚旅行を兼ねて結婚式をしよう！と決め、インスタグラムで私を見つけ、ウェブサイトから問い合わせてきてくれました。やり取りは、カップルによってさまざまです。メールや、スライドチャット、SNS (Facebook, Whatsapp等) など、カップルの望む方法でやり取りをしています。そして、契約を交わす際に必ず二人のラブラブ写真を送っていただくようにしています。

DaisyとJesusの場合はメールのみのやりとりでした。しかも、Daisyはかなりの筆不精で、返信が来て2、3行で終わりだったので、実際に京都で会うまでは、あまり二人のことが掴みきれず、少し心配しました。でも、二人のやりたいことは明確だったので、その想いとラブラブ写真を頼りに、会ってからの関係構築に努めようと思えました。

契約を結ぶ前にも程度の結婚式スタイルや行き先は決めるようにしています。こちらの二人の場合は、初めての日本旅行を楽しみ、日本のいろんなものを体験したいという気持ちが強かったため、結婚式前後入れて3日間のスケジュールを提案しました。





1日目は、京都市内でカジュアル着物を着てデートしながら撮影。2日目は京都駅を出発して、途中で観光列車に乗り換えて天橋立へ行き、観光してから、客室露天風呂付きのラグジュアリーな温泉旅館へチェックイン、前祝いとして美味しい会席料理と温泉でリラックスしてもらってから、3日目が本番。お部屋で文度をして結婚式、撮影、そして地元の文化体験してもらおう、と言うコース。

1日目にやっと会えた時は、お互いに笑顔がこぼれました！「やっと会えたね～！ようこそ京都へ！」と言いながら、ひとまずホッと、二人の幸せのお手伝いは始まりました。着物レンタルからデート撮影まで同行し、2日目の移動も一緒に同行しガイドもやります！サバサバとした新婦とおっとりとして優しい新郎の二人はバランスのとれたお似合いのカップル！道中でいろんな話を聞き、メキシコのウェディング文化も教えてもらって、心が打ち解けることができました。

結婚式当日は、それぞれのお部屋でお支度。希望のヘアメイク、ブーケ全て事前に画像でやり取りをし、時にはムードボードを作るなどしてできるだけ認識の差異のないように気をつけながら当日を迎えるようにしています。ファーストルックは、旅館のロビーで行いました。私の大好きな瞬間の一つです。Daisy、大袈裟でもなんでもなくヴィーナスみたいでした。二人は、照れながらも幸せそうに見つめ合う瞬間は私が思わずずっとうりました笑

旅館のある場所はすぐ目の前が海。旅館所有のTuktukiに乗ってビーチ近くで撮影をしてから、地元の人の多くが知らない「隠れた自然スポット」である滝へと向かいました。この滝と温泉に着かれてDaisyとJesusはこのロケーションを選びました。この滝へ行き着くには多少のトレッキングが必要のため、みんなスニーカーで登ります。歩いているだけでマイナスイオンを感じることができ、楽しんで登ってくれました。勢いよく流れる滝へ到達すると感嘆の表情がお二人から見えました。スポットへ到着してから、ヘアメイクを整え、誓い合いたいスポットを選んでいただき、同系色の敷物を敷いてその上に立っていただき準備が整ったところで結婚式を始めました。式を進行は私が行なうのですが、事前にいただいていたラプストーリーの質問票の答えを基にオリジナルの式のスク립トを作るので、式中は、笑ったり、涙が出たりという様々な表情を見せてくれます。DaisyとJesusの場合は、ファーストルックのところで感極まっていたので、式中の誓いの交換のところでは、言う方も聞く方も涙を流しているのが見えました。どんな表情もとても美しいと思う瞬間です。誓いの交換の時はなるべくその場から距離を置く様にしていきます。だから、二人がどんな誓いを交わしているのかわかりません。（滝の音で余計に聞こえませんでした！）「自分の言葉で結婚を誓う」ことの大切さは、海外のカップルから学びました。言葉がそのまま相手に届いている感じがいつもしています。

式後は滝の周りで撮影をし、山を降りてからは、「観光や体験をしながらの撮影」が続きます！神社を参ったり、家商の伝統的な家の中を巡りながら、地元のソウルフードを食べたり、酒蔵へ行ってお酒の試飲をして楽しんでいただいて、一日の出来事や体験は全て写真に収めました。酒造の試飲中に、急速、親族のいるメキシコで披露パーティをする事になったことを教えてくれて、ブライズメイド、グroomsメンにそれぞれプレゼントを渡したいと言うことで女性用にこけしを、男性用にお酒のミニボトルを購入されました。お二人へは私たちが、二人の名前入りのお酒をプレゼントしました！とても喜んでくれました！

帰り際、「とても素敵なBig Day!になった、ありがとう」と言う言葉をいただきました。早く家族や友達に日本でのウェディングの写真を見せたい！ともおっしゃっていました。過剰な装飾は二人には不要で二人の愛と誓い合う最高のスポットと場面、質のいいヘアメイク、写真、ブーケ、そして大切な思い出があればそれで十分！と言うミニマリスティックな考え方は私の共感するところであり、そう言うスタイルを望むカップル様が少なからずいらっしゃることを実感している今日この頃です。結婚式での誓いの交換をする瞬間に最高の気持ちになってもらうためにどうすればいいか、どうやって気持ちをリラックスしてもらおうか、素直な気持ちになってもらうか、そのためには何が二人にとって大切なのか、そのことをいつも考えながら、ご提案、実行できる様これからも努めて行きたいと思います。そして、実際にお会いする前には、すでにお互いの（カップルとプランナー）心が打ち解けている状態になっていることを目指したいと思っています。エローメントウェディングを是非、日本人のカップル様にも行っていただきたいと思っています。



**渡辺 美枝 (わたなべ みえ) さん** BEyond Weddings & Events代表  
ABC協会認定プロフェッショナル・ブライダルコンサルタント

某ウェディング会社の国内外の店舗（ラスベガス、グアム、札幌、京都）にて15年勤めたうち、最後の赴任地シンガポールで独立を決定し、地元京都へ帰国。国籍を超えたカップルのプランニング経験を生かし、2017年11月にBEyond Weddings & Events代表として本格始動。京都市や京都府北部を中心に、北海道や他のエリアで、外国人カップル、国際カップルをメインに、「ウェディング施設ありき」にこだわらないロケーションや会場での結婚式、レセプション、観光や文化体験を融合したプランニングを行っている。  
「私の人生は、私自身で決めるからこそ私の人生になる」ことをモットーに日々、私を主軸にした人生を送っている個性派国際プランナー。趣味はアメブロ投稿、旅行、カフェで仕事、ロボホンと遊ぶこと。